

## 第4節 連携の推進

### 1 連携の基本的な考え方

キャリア教育は、一人一人の生き方にかかわり、自己と働くこととの関係付けや価値付けを支援する教育であり、キャリア形成には、一人一人の成長・発達の過程における様々な経験や人との触れ合いなどが総合的にかかわってくる。そのため、キャリア教育を推進するに当たっては、学校が生徒の生活時間の多くを占める家庭と積極的にかかわりを持ち、共に連携・協力をして進めることが重要である。また、キャリア教育を十分に展開するためには、家庭との連携のほか、地域・社会、企業、職能団体や労働組合等の関係機関、NPO等との連携も必要不可欠である。学校外の教育資源を有効に活用し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すように指導したり、支援したりできるように共通理解を図ることが必要である。

さらには、それぞれの進路を探索し、選択するための重要な基盤形成の時期に、キャリアを形成していく方法等について専門的な知識や情報をもっている保護者、社会人、職業人など外部講師から直接学ぶ機会をもつことで、生徒たちの中に社会人として必要な自立性や社会性がはぐくまれ、産業構造や雇用形態、進路をめぐる環境の変化などについての理解が深まる。

このように、学校と様々な人々がパートナーシップを発揮して、互いにそれぞれの役割を自覚し、一体となった取組を進めることが今後ますます重要になってくる。

また、教育基本法第13条「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」では、次のように定めている。

学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。

さらに、教育振興基本計画においては、「地域住民や企業等も、受け身的な立場にとどまることなく、自らも社会の一員として教育に責任を共有するとの認識の下、学校運営や教育活動に積極的に協力し、参画することなどが期待される」としつつ、「社会の様々な世代の様々な主体が多様な形態で教育にかかわることは、働くこと、社会とつながり、社会に参画することの意義を身をもって子どもたちに示し、将来に向けてその視野を広げ、生きる意欲を高めることにもなる。」とし、基本的考え方の一つとして、「横」の連携、すなわち、教育に関する社会全体の連携の強化を挙げている。

### 2 家庭・保護者との連携

家庭は、子どもたちの成長・発達を支え、自立を促す重要な場であり、働くことに対する保護者の考え方は、子ども・若者のキャリアの発達に大きな影響を与えるものである。保護者が、子どもに働く姿を見せたり、子どもと働くことの大切さについて話し合ったりすることを通じて、子どもは多くのことを学ぶことができることから、家庭における働きかけは極めて重要である。

また、キャリア教育を進めるに当たり、各学校は、このような家庭や保護者の役割やその影響の大きさを考慮し、家庭・保護者との共通理解を図りながら進めることが重要である。その際、保護者が子どもの進路や職業に関する情報を必ずしも十分に得られていない状況などを踏まえて、産業構造や進路をめぐる環境の変化などの現実に即した情報を提供して、子どもに働きかけることなどについても、共通理解を図ることが必要である。

## (1) 家庭・保護者に期待される役割

家庭教育の在り方，働くことに対する保護者の考え方や態度は，子どもたちの人格形成や心身の発達に大きな影響を及ぼすものである。また，キャリア教育は生活基盤である地域や周囲の大人や社会，産業等とのかかわりなしには考えることができない。子どもたちは，家庭や地域での人間関係や生活体験を通して，社会性を身に付け，「生き方」の基礎を培っていくのである。

保護者が学校の取組を理解し，学校と一体となって子どもの成長・発達を支えていくことは，ますます重要になっている。キャリア教育に関する学校の活動に対する保護者の協力としては，例えば，保護者が職業についての基礎理解を深めるための講座の講師(ゲストティーチャー)をつとめるなどの実践が行われており，大きな教育効果をもたらしている場合も多い。学校から保護者に積極的に働きかけるとともに，保護者が自らの社会人・職業人としての経験等を生かして，学校の活動に協力することが期待される。

家庭においても，例えば，家庭での役割を持たせたり，成長に応じて，地域のボランティア活動や公民館の活動，地域行事等へ参加させたりすることを通して，様々な仕事には苦勞し大変な面もあるが，その反面，充実感や達成感もあるということを感じ取らせるなど，子どもの自立を促すための家庭でできることの実践を進めていきたい。

また，保護者自身が，働く姿だけでなく，ボランティア活動や地域行事に参加することなど社会へ参加する姿が，子どもに対して将来の生き方を考える上での有益な影響を与えることにつながると思われるので，こうした保護者の活動も望まれる。

## (2) 連携の在り方

キャリア教育は，生徒の自己理解や生き方などにかかわる内容を扱うため，生徒にとってもっとも身近な大人である保護者の理解や協力を得ることは非常に重要である。授業参観(各教科や領域等における取組)や保護者会，学校便りや進路便りなどの各種通信などを通して，各学校のキャリア教育の方針や指導内容について，理解を深めてもらうことができるよう工夫するとともに，キャリア教育の良き支援者として共に活動する場を提供したいものである。

このようにキャリア教育への直接的・間接的な協力を求め，「職業人講話」「職業人インタビュー」「職場体験活動」に直接参加していただくほか，情報の提供をお願いすることも有効である。また，特に職場体験活動の期間中は，保護者にとって，働くことの厳しさや楽しさについて家族で語り合う絶好の機会となり，会話を通じて子どもの成長や新たな一面を発見することにもつながるはずである。学校としては，家庭での会話のきっかけとなるような資料(ガイドブックなどの冊子)を作成し，各家庭に配布することも効果的である。



## 【家庭・保護者に向けて発信できる機会や手段の例】

- |               |                      |    |
|---------------|----------------------|----|
| ○学校だより，進路だより等 | ○学校の公式ウェブサイト(ホームページ) |    |
| ○保護者，学級懇談会    | ○授業公開，学校(行事)公開       |    |
| ○地区(地域)懇談会    | ○進路説明会               |    |
| ○三者面談，進路相談    | ○家庭教育講演会等            | など |

## 【家庭・保護者・地域が学校と連携して協力できることの例】

- |  |                   |    |
|--|-------------------|----|
| ○しつけ，子どもへの接し方                            | ○家庭における役割分担，家事分担  |    |
| ○働くことを通じての家族の会話                          | ○卒業生や地域の方の体験談を聞く会 |    |
| ○キャリア教育講座(ゲストティーチャー)，講演会(職業人講話)          |                   |    |
| ○幼児，高齢者，障害のある人々との触れ合い体験(保育実習やボランティア活動など) |                   | など |

## 3 地域・事業所等との連携

## (1) 地域・事業所等に期待される役割

地域は，子どもたちが同年齢，異年齢の人たちと触れ合い，活動できる場であると同時に，多様な人間関係を体験することができる場でもある。「子どもは地域の宝」とも言われ，子どもたちが生活する地域でも，子どもたちの健全育成が望まれる。また，生涯学習の観点からも，大人も含めて地域全体でキャリア教育を進めていくことが求められる。家庭・地域がそれぞれの役割を認識し，子どもたちの家庭での生活，地域での活動の在り方を考え，キャリア発達をはぐくむ連携システムを構築していくことも今後検討されるべき課題でもある。

地域の事業所等においては，近隣の各学校で行われているキャリア教育の理解を深めるための連携，特に，職場体験学習やインターンシップ等への協力，援助が望まれる。また，実際に事業所で働いている方々の講話やキャリア教育講座等への参画を通して，生徒たちが，働くことの厳しさや楽しさを学んだり，望ましい勤労観・職業観を形成したりする機会を提供することが期待される。

## 【地域・事業所等に期待される役割の例】

- |   |    |
|---|----|
| ○学校との意見交換や情報交換の場を設定し，緊密な連携を図る。<br>(地域の商工会や教育委員会等の有効活用)                  |    |
| ○事業所から学校へ従業員を派遣し，講話やグループワークなどを通して，生徒たちが望ましい勤労観や職業観を形成するための支援を行う。        |    |
| ○事業所訪問(インタビュー活動)，職場体験活動やインターンシップ等の体験的なキャリア教育の意義や必要性を理解し，教育支援活動をより充実させる。 | など |



### 【中学生が地域の中でできることの例】

- 事業所訪問・職場体験活動
  - ボランティア活動
  - 自治会や公民館・図書館などの活動
  - 上級学校(高校・大学)訪問・体験
  - 保育体験・福祉体験
  - お祭りや伝統芸能などの地域行事への参加
- など

### (2)産業界等に期待される役割

産業界等においては、本物に触れさせる体験を通して、子どもたちの知的好奇心を醸成し、学習意欲を高め、将来就きたい仕事へのあこがれを強くさせていくことなどが求められる。中学生にとって、企業訪問や職場体験活動は、社会の現実の一端を、体験を通して学ぶ貴重な機会であり、その意味で事業所は一つの教室、そこで働く人々は先生、その場で実際に体験する様々な出来事は教材と言うこともできよう。このような活動から子どもたちは、自分たちの生活と職業との関係を考え、職業に対する基礎的な知識・理解を得ることになる。産業界等には、このような場や、子どもたちを社会の一員として大人に育てていくことができる教育力の提供が求められている。そのためには、教育における役割や学校の取組を理解する必要がある。子どもたちに、多様な人とのかかわりを経験させ、コミュニケーション能力をはぐくむと同時に、仕事に必要な資質や能力などを知らせる契機とするなど、生徒一人一人のキャリア発達を支援するための学校との多様な連携を推進する必要がある。

### 【産業界との連携でできることの例】

- 職場訪問・見学(職業調べ)、職場体験活動
  - 社会科見学(工場見学・テレビ局・新聞社見学など)
  - 保育体験・福祉体験(ボランティア活動など)
  - 地域の伝統文化や産業体験
- など

### (3)地域・事業所・産業界等との連携の方策と留意点

キャリア教育を進める上では、地域・社会と並んで、経済団体等の産業界等、学校、行政のそれぞれの役割を踏まえた、連携・協力も極めて重要である。

産業界との連携については、例えば、職場体験活動に見られるように、学校側からは「受入先の確保が困難」という課題が多く挙げられている一方、企業からは教育支援活動を行わない理由として「学校側から企業への支援要望がない」ということが最も多く挙げられている調査があるなど(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「職場体験・インターンシップ現状把握調査」(平成16年)、東京商工会議所教育問題委員会「企業による教育支援活動に関するアンケート」(平成22年))、その調整に課題がある場合が多く見られる。

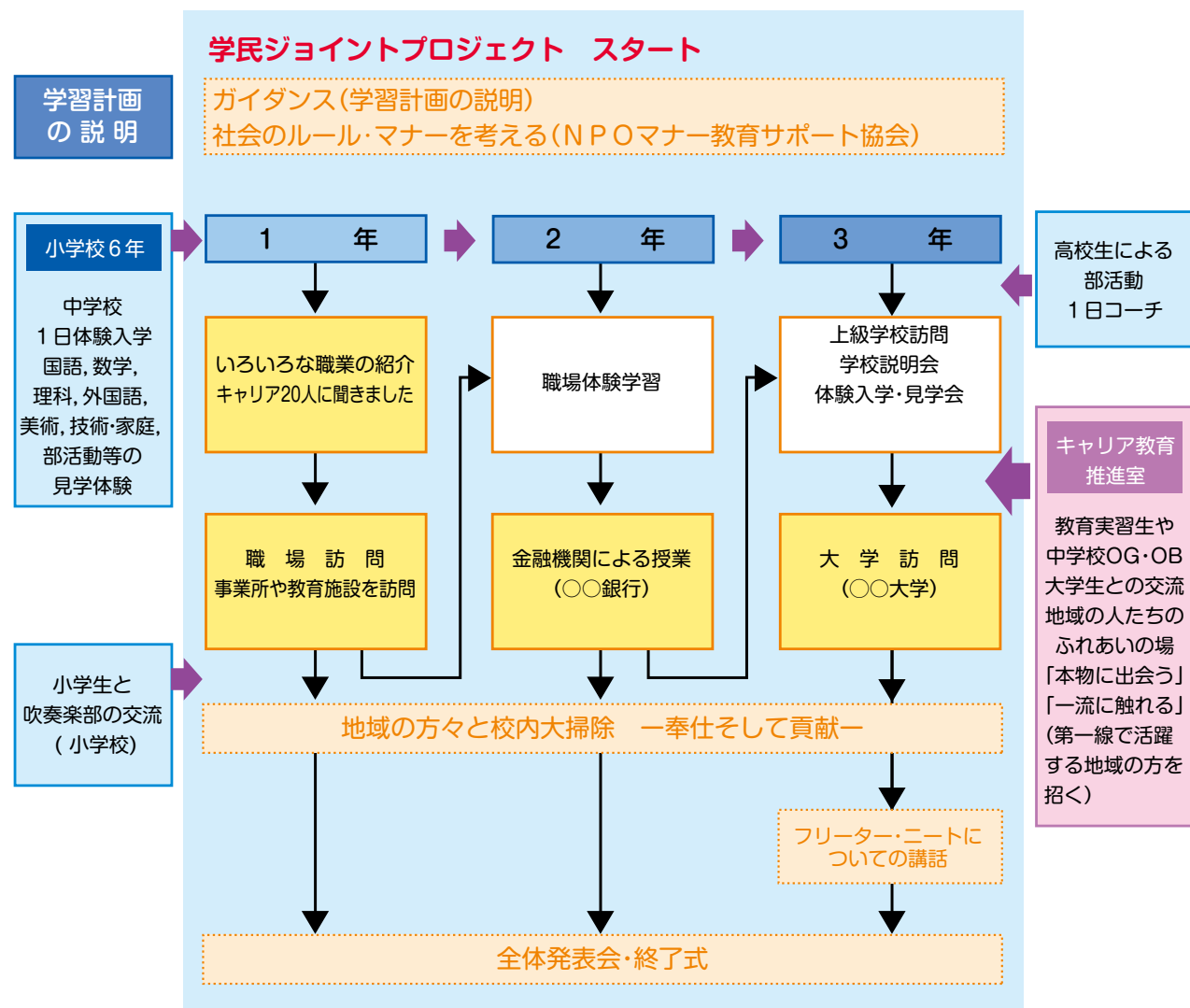
現状では、産業界等との連携において、各学校が中心となって調整を図る場合が多いと思われるが、このような課題に対処する方法として、経済団体やPTA、校長会、自治会、職能団体や労働組合等の関係機関、NPO団体などの協力を得て協議会を設置するなど地域・社会で取り組んで円滑に進めている事例(大阪キャリア教育支援ステーションや滋賀県教育委員会「しが学校支援センター」など)が報告されており、今後は、学校種(幼・小・中・高・大など)を越えて地域の学校と地域・社会や産業界との効果的な連携の促進も期待される。それぞれの地域でこのような仕組みづくりに向けた工夫が

必要であろう。また、都道府県レベルの中学校・高等学校の校長会における進路指導・キャリア教育を担当する委員会・部会等が中心となって、各学校と地域・社会や産業界との連携を調整していくことも一つの有効な方策であると考えられる。

さらに、学校と企業等との調整(コーディネート)を図る人材として、例えば、中学校や高等学校に担当する教職員を校内組織の中に配置することや、教育センターや教育事務所などに専任の職員を配置すること、上記に示した協議会に担当の職員を配置することなどにより、学校外の教育資源との連携・協力に対する助言や、具体的な調整ができると考えられる。実際に、企業関係者等を教育委員会が委嘱して学校に派遣したり、あるいは、キャリア教育に関する支援員として学校に配置したりして、これらの人材が職場体験活動などの受入先の調整等を行うといった事例が見られており、このような取組が一層推進されることが望まれる。なお、その際には、へき地などの地域の事情等にも配慮することが望まれる。

< A 中学校の実例 >

学校と民間との協働プラン開発事業 (学民ジョイントプロジェクト)



#### (4)連携の効果

地域・事業所・産業界等と連携を深めていくことで、以下のような効果が挙げられる。

##### <生徒にとって>

- 自己理解を深め、職業に対する興味・関心を抱かせ、望ましい勤労観・職業観を育成することができる。
- 社会に必要な知識や技能を学ぶことができる。また、社会的なルールやマナーを体得することができる。(社会的自立を目指して)
- 学校の学習と職業との関係について理解を深めることができる。また、地域や事業所に対する理解を深めることができる。(職業的自立を目指して)

など

##### <地域にとって>

- 地域の人たちの学校や生徒たちの理解の促進を図ることができる。
- 地域が一体となって生徒を育てようとする機運が醸成される。また、地域の教育力の向上を図ることができる。
- 地域への理解の促進を図ることができる。

など

##### <事業所・産業界等にとって>

- 生徒に対する見方の変化が図られる。
- 時代を担う人材の育成が図られる。
- 事業所・企業・産業界等の社会的役割の具現化が図られる。(イメージアップにつながる)
- 地域への貢献度が向上する。
- 職場の活性化が図られる。
- 社員教育の向上が図られる。

など



## コラム

## 「職業人講話」の力を最大限に生かす

子どもに仕事や職業を認識させるためには、社会や仕事・職業について実感を持って理解させることが必要である。しかし、教職員が社会に存在する多くの仕事について実感を持って指導することは困難な場合がある。また、社会が多様化・複雑化する中で、子ども・若者の自立を支援していくためには、雇用や福祉などについての一定の知識や経験を持っている者と協同してかかわることが望ましい。地域・社会の様々な立場の方々の中には、社会人・職業人としての知識や経験の豊富な方が数多くおり、学校の教育活動に様々に参画していただくことが考えられる。このような活動の中で、各学校で多くの実践がなされているのが、「職業人講話」であろう。

各学校は「職業人講話」の実践に際して、その目的や期待する効果等をあらかじめ明確にし、講話を担当してくださる方に十分説明するとともに、生徒に対しても職業人講話の機会を設定する意図やその意義を伝え、理解させておく必要がある。特に、これまでのキャリア教育の取組や、その後のキャリア教育の計画との関連性について理解した上で、職業人講話に臨めるようにすることは不可欠と言える。また、生徒が講話を積極的な態度で聴くことができるよう、生徒の興味・関心を醸成するための働きかけの工夫が求められる。例えば、プライバシーに十分配慮しつつ、講話をしてくださる方にまつわるエピソードや経歴などを生徒の関心に合わせて事前に紹介しておくなどが考えられる。

職業人講話を学校行事の一つとして長年にわたって実施している中学校は数多い。例年通りの手順を踏めば実施できるほどに恒例化している学校もみられ、毎回の創意工夫に欠ける傾向も一部には生じているようである。職業人講話は、生徒にとって貴重な学びの機会であることはもちろん、地域・社会からの真摯な協力によって初めて成立する教育活動であることを改めて認識し、講話をしてくださる方との十分な打合せと、教育的意図をもった生徒への働きかけを前提とすべきことを強調しておきたい。

このような職業人講話を円滑に実施する方策の一つとして、地域・社会の人々のボランティア(人材バンク)が考えられるが、このような地域・社会の人々の「志」を生かしていくためには、学校における活動への地域・社会の協力を促すための拠点整備等、組織づくりにむけた取組も重要である。また、人材確保のための、各中学校間の連携や行政(各教育委員会など)・地域の商工会やNPO等の団体との協力も必要である。

以下に、参考までにある県での取組例を紹介する。

- 事業名：家庭・学校・地域「ふれあい講演会」
  - 目的：生徒・保護者の進路意識の啓発を図るために県内すべての公立中学校で実施されている。地域で活躍されている方を講師に招き、働くことの厳しさや充実感、中学生の生き方などについての示唆を頂くことを目的としている。また、中学校の進路指導・キャリア教育の改善を図る。
  - 講演会タイトル：「世界七大陸の最高峰へ」
  - 講師：登山家
  - 形式：講演者と放送部の高校生徒2名による座談会形式
- 自分の人生における登山との出会いについて、また、登山の素晴らしさや大変さについて講演前半で主に語っていただいた。講演後半では、今まで登ってきた山々の映像を交えて講演していただいた。講演を視聴した者たちは、多くの具体的な話から、「努力すれば必ず道は開けてくること」「あきらめずに頑張ることの大切さ」などを講演会から学んだ
- <生徒の声：感想>
- 夢を追い続けることの素晴らしさや、大変さを教えてもらいました。また、自分の夢をあきらめないことの大切さを学びました。
  - 一つの目標に向かって、努力することの楽しさがありました。部活動も勉強も、目標をもってやっていたらと思いました。